

らららん12号



2018. 12. 20

2学期後半を振り返って

2学期後半は、幼児部では4・5歳児の“生活発表会”、3歳児の“のだっこアート”がありました。

生活発表会では、子どもたちのやる気を感じられた素晴らしい発表会になりました。それぞれのグループごとの個性も輝いていて、楽しく子どもたちの願いもよくわかりました。

青グループは「森の会議」というなかなか深い内容になっていました。どんぐりと動物のそれぞれの思いを扱ったものでした。どんぐりたちは全部を動物に食べられると仲間を増やせません。動物たちも大切な食料ですから食べないことはできません。どうしたら共存できるか、相手を思いやることが大切だと教えてくれていました。素晴らしかったです。

オレンジグループは「平成最後の発表会」で、これまでの歴史を振り返る内容になっていました。過去のことを振り返りながら、自分たちが育っていく未来に対しての夢や希望までも含めた発表会になっていました。とにかくのびのびと演技ができ、楽しそうな姿が印象に残っています。子どもたちの気持ちがひとつになっているなど感じました。

ピンクグループは「かえるののどじまんの巻」で、楽しい雰囲気が出来上がっていました。事前に様子を見せてもらったとき、演奏などは「友だちと音を合わせるようにすると、きれいに聞こえるよ」とアドバイスしました。当日は、そのときと比べるととてもよくできていました。そのことがとても嬉しかったです。みんなの手づくりの楽しい内容でした。



森の会議は、なかよくすることの大切さを教えてくれました。



現代の場面、USAがとても上手なオレンジグループでした。



ピンクグループの太鼓。元気のよいカエルたちでした。

のだっこアートは、3歳児の夢がふくらむ作品が目を引きました。時期的にもクリスマスを題材に扱ったものがいくつかありました。プレゼントをもらうための僕や私の家はみんな大きな煙突が作ってありました。秋の自然、どんぐりや落葉も効果的に使ってありました。それぞれの部屋では、作品は日ごとに様子が変わっていました。「あそび」の中で生まれるアートなので、完成途中のものや毎日変化するものもありました。自由に表現を楽しみ、その過程を大切にしながら自己表現したものが「のだっこアート」の展示でした。今回はたくさんの保護者の皆さんが、感心をもって見に来られたことも嬉しかったです。ご協力有り難うございました。



ばらぐみはトナカイに乗って大はしゃぎでした。



ももぐみはイチヨウでちょうちょうができました。



すずらぐみは、みんなで足跡や手形をしっかりと残しました。楽しそうですね。



たんぽぽぐみは元気のよいツリーができました。



うれしそうな笑顔が印象的なちゅうりっぷぐみ

今、乳児部ではクリスマスの飾りがきれいです。乳児部園舎は、中庭に面したところが全部窓になっています。そこにたくさんクリスマスの飾りができていました。子どもたちのがんばりが、目に見えてきそうでした。きっと楽しいクリスマスになると思いますよ。みんなの雰囲気盛り上がっているなあと感じました。



ねこさんのツリーは、きれいにできています。



こねこさんのリースは、色がきれいでした。



りすさんのリースは、形がいいと思いました。



こりすさんのツリー。いろいろな飾りがつきました。



ひよこさんは靴下。プレゼントがたくさんかな？

平成もあと少し

来年の5月には新しい年号が発表され、平成が終わることになりました。今から7年前、私は小学校長をあと少しで退職する時期になっていました。私はそのとき、山口県の小学校長会の会長でした。2月中旬、東京で全国連合小学校長会理事会が行われ参加しました。理事会の最後の日程が皇居へ訪問し、今上天皇からお言葉をいただくことが計画されていました。しかし、それは微妙でした。数日前から天皇陛下は心臓の状態が思わしくなく、手術が予定されていると新聞などで報道されていたからです。

いろいろ心配したのですが、皇居への訪問は予定どおり行われることになりました。その日は大変寒い日でした。みんなは震えながら皇居の“春秋の間”に入りました。大きな部屋ですが、暖房が効いておりとても暖かいのです。しかし、暖房器具は設置してありません。床暖なのかスッキリとした部屋にも驚きました。また、その部屋の絨毯の毛足がとにかく長いのです。「キョウツケイ」をしても、クラリと傾きそうになるくらい安定して立つことが難しかったです。その絨毯の上に長いロープが張られ、ロープに靴のつま先を合わせるように指示がありました。みんながそろって並び隊形が完成すると、ロープはさっと取り払われました。

しばらくして、天皇陛下は美智子様と共に私たちの待つ“春秋の間”へ入場されました。実は、このころ美智子様は足の具合が悪かったのです。私たちへのお言葉は、少し高い段の上にあがられ、お話をされるようになっていました。美智子様も同じように段上に上がられるようでした。そのとき陛下は美智子様の手をそっと握られ、不安定な足もとをフォローしておられました。あとでよく聞くと「これが心臓手術前の最後のご公務です」と、制服姿の宮内庁職員さんが教えてくれました。



また、そのとき天皇陛下から私たちは心もこもったお言葉を頂きました。「それぞれの学校には、震災の影響で苦しい生活を強いられている子どもたちもいるでしょう。また、いじめなどに、苦しんでいる子どもたちもいるでしょう。何とか先生方で力を合わせて、問題を解決するように努力してください。少しでも子どもたちの笑顔が戻ってくるように、尽力していただくことを願っています」という内容でした。折しもちょうど1年前、東北大震災がありました。全国には生活に困っている子どもたちも多くいました。また、いじめも社会的な問題としてよく取り上げられていました。私は心の中にズシンと重い宿題を頂いたような気持ちになりました。

先ほどの宮内庁職員さんが「今日のお言葉は天皇陛下自らが作られていますね」と、これまでの経験から推察してか、話してくれました。確かに天皇自らの言葉ということについては、話の内容や思いの強さで疑う余地はないように思えました。

これほどまでに国民のことに心を砕いていらっしゃるのかと、強い感動がありました。また、ご自分は数日後にバイパス手術をされるのに、美智子様を気遣っていらっしゃるお姿に「天皇陛下ってすごい」と思いました。天皇陛下のように、私も家内にやさしく接していきたいと、このときは思いました。

平成もあと半年くらいになりました。天皇陛下のように、日本に住む人々が平和で明るいくらしができることを強く願いました。